

令和5年6月5日

横手市議会議長 寿松木 孝 様

出席議員代表
広報広聴委員長 高橋 聖悟

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	令和5年5月15日（月）午後5時30分～7時00分
2. 開催場所	よこてシャイニーパレス 5階
3. 出席議員	高橋聖悟、大日向香輝、土田百合子、井上忠征、加藤雄太、林一輝、加藤勝義、青山豊、福田誠、立身万千子、高橋和樹、菅原正志
4. 申請団体	一般社団法人横手青年会議所
5. 参加人数	27人（議員12人、横手青年会議所15人）
6. テーマ	J Cの取り組みについて
7. 目的	一般社団法人横手青年会議所の活動について情報共有するとともに、どうすればその取り組みが横手市の活性化につながっていくのか、その方策について意見交換を行う。また、若い世代の会員と懇談することで20～30代の考えを市政に反映できるようにする。
8. 懇談会の内容	司会：高橋 聖悟 広報広聴委員長 1. 議会代表挨拶 加藤 勝義 副議長 2. 団体代表挨拶 熊谷 剛 理事長 3. 出席者紹介 4. （一社）横手青年会議所の取り組みについて ①ウェルビーイング委員会について（菅原 京子 委員長） ②ひとづくり委員会について（荒川 洋介 委員長） ③まちづくり委員会について（鶴田 享士 委員長） 5. グループごとの意見交換・全体発表 6. 講評・閉会挨拶 大日向 香輝 広報広聴副委員長

9. 意見交換等の主な内容

■（一社）横手青年会議所の取り組みに関する説明

1) ウェルビーイング委員会について

- ・テーマ：「わたしの幸せ」から「わたしたちの幸せ」へ
- ・目標：地域社会とのつながりの中で、個人の主観的価値観やお互いの個性・多様性を尊重し合い、自分らしく生きられる「幸せ人口」の増加を目指す。
- ・事業計画：①ウェルビーイングについて学び普及する事業を実施する。
②ウェルビーイングに関する他団体との連携・共有を図る。
③年間を通じウェルビーイングへの学びを深める場を提供する。

・事業：①3月例会「幸せが生み出す企業成長」

横手市では人口減少に伴い、企業の人手不足が深刻化しており、ウェルビーイングを導入することで課題が解決できるのではないかと考える。人財が心身共に健康で働き続けられる魅力的な労働環境について学ぶことを目的に、経営者・企業向けのウェルビーイング講座を開催し、ウェルビーイングが企業・人・地域に与える影響力について講演いただいた。

②6月例会「わたしの幸せはあなたの幸せ～よこてフォト・アートコンテスト～」

秋田県は多様な生き方・価値観に対し寛容性が低いことから移住者・若者の人口定着率が低い結果が出ている。その原因の1つとして芸術に触れる機会が少ないことが挙げられている。芸術を通じ多様な価値観に触れ寛容性と創造性を高めることを目的として、インスタグラムフォトコンテストやアートコンテストを実施する。

2) ひとつづくり委員会について

- ・テーマ：Benefit！次世代とともにまちの未来をつくろう！
- ・基本方針・目標：次世代へ体験型の事業を通して、まちの未来をつくる人財を育成する。
- ・事業計画：①野外活動を通して横手の魅力に触れる事業を実施する。
②多種多様な人との繋がりを通して新たな考えや価値観を生み出す事業を実施する。
③日本JC協働運動に関する事案に対応する。
④SNSにて委員会の魅力を発信し、事業構築段階から会員候補者を巻き込んで活動する。
- ・事業の進め方：①有識者の協力を募り、横手の恵みを感じることができる野外活動を行う。
②有識者の協力を募り、多種多様な人とのつながりを創出する。
③日本JC協働運動プログラムの内容を理解し実行する。
④会員候補者を例会だけでなく、事業構築段階から巻き込んで会員拡大を行う。

3) まちづくり委員会について

- ・テーマ：横手の魅力発信！～動いて魅せるまちづくり～
- ・基本方針・目標：自治体及び他団体と連携して市民のシティセールスマインドを向上させ、横手の魅力を市外県外へ発信することを目指す。
- ・事業計画：①横手の魅力を対外的にアピールしていく市民を増やす事業を構築する。
②横手市外県外の横手ファンの増加及び更なるファン度合いの向上につながる事業を構築する。
- ・事業の進め方：①横手青年会議所のほか、自治体及び他団体と協働し、横手市内外及び県外にファンを増やすために働きかける事業を開催する。
②横手ファンとともに魅力を集めたイベントを開催し、市外県外へ発信する事業を開催する。
- ・『毎月魅力発信プロジェクト～横手の価値創造から魅力発信へ～』
横手の魅力を発信する人が増えてほしいという思いから、毎月発表されるキーワードに関連した魅力をインスタグラムで投稿し、合計「いいね！」が一番多かったアカウントの人を表彰する。

■グループごとの意見交換・全体発表

①ウェルビーインググループ

【議会側メンバー】加藤勝義、土田百合子、青山豊、福田誠

- ・ウェルビーイングには、数値化できるものと数値化できないものの2種類がある。数値化できるものは寛容性などで、個々人の好みなど感情的なものはそれぞれ人によって違うものなので数値化できない。
- ・ウェルビーイングという言葉が浸透していないので、認知度を高めていく必要がある。どのように周知活動していくのか、どのように落とし込んでいくのか。
- ・意識的にウェルビーイングという言葉を使っていくことで周りに言葉をまず浸透させる。
- ・いろいろなことをやって、結果としてまたやりたいね、楽しかったねという感じになったら、それがウェルビーイングではないか。
- ・ウェルビーイングについては議会でも一般質問で取り上げた議員がいる。横手市の市民幸福度を上げていくには市長の意識を変えていかなければいけないのではないか。
- ・議員は市民の幸福を考えて行動しているので、議員自体がウェルビーイングを体現しているのではないか。

②ひとづくりグループ

【議会側メンバー】大日向香輝、加藤雄太、立身万千子、高橋和樹

- ・ひとづくり委員会では「横手やきそばを次世代に継ぐ」という事業を検討している。
- ・横手やきそば暖簾会に所属しているキャベツ農家を訪問し、交流したらどうか。
- ・横手やきそばを提供する店舗が少なくなってきたという課題もある。
- ・「あそこのお店の味がなくなってしまう」と感じている市民も多い。後継者問題として味

を守るための対策が必要ではないか。

- ・素人が横手やきそばの作り方を店の方から学んだりして味を守っていったらどうか。
- ・現在、やきそば職人を募集していないので、職業選択の1つとして意識付けさせたらどうか。
- ・青年会議所の事業は単年度制のため、事業を継続していくことが難しい。青年会議所で実施した事業をスタートアップとして、横手市内の企業に事業継承してもらえないかアピールする機会があってもいいのではないか。

③まちづくりグループ

【議会側メンバー】高橋聖悟、井上忠征、林一輝、菅原正志

- ・情報発信にはいろいろな方法があるが、まちづくり委員会ではインスタグラムで発信をしていこうと決めている。
- ・インスタグラムはアカウントを持っていない人がいるのではないか。インスタグラムよりフェイスブックのほうが利用している人が多いのではないか。
- ・フェイスブックは古い。若い人はやっていない。
- ・横手にはそもそもどういう魅力があるのかを考える必要がある。
- ・何かやっている人に乗っかるのもいいのではないか。
- ・議員など各地域に詳しい人を頼りに、数珠つなぎで情報収集する方法もある。
- ・各地区や各町内のお祭りなどに参加して、地元の人しか分からない魅力を発信してもいいのではないか。
- ・横手美人を探して発信したらどうか。
- ・横手の特産品をモチーフにした横手オリジナルの百人一首を作って発信したらどうか。
- ・当たり前すぎて気づかないもの、地域に眠っているものを発見し、発信することが大事。

10. 出席議員所感

《加藤勝義 副議長》

様々な意見がある中で、結局のところ一般にウェルビーイングという言葉の認知度が低いという意見が多く出た。ウェルビーイングとは何をするものなのかわからない中で、言葉だけが独り歩きしないように、まずは事業をしながら結果的にこれがウェルビーイングだということを知ってもらった方が良く、意見集約があった。私は、先の一般質問で行った「ウェルビーイング」について、自治体でのウェルビーイングについて説明をしたが、これを企業に置き換えた場合も基本的な考えは同じであると申し上げた。最も大切なのは、組織の長の意識が必要不可欠なのは言うまでもないし、何のために行うのか改めて考える必要があると感じた。

他の二つのグループ（まちづくり事業・ひとづくり事業）の発表をお聞きして感じたことは、今回の三つのテーマそれぞれが大きく関連していることから、それぞれのテーマ委員会で出した事柄を、どのように意見集約し関連付けていくのかが大切と思う。それぞれが年2

回ほど例会を開催するということだが、グループ間での意見集約をする機会を多く持つことで、持続可能な地域をつくる課題が見えてくるのではと感じた。

《高橋聖悟 広報広聴委員長》

広報広聴委員会として、懇談会が開催されたことは非常に嬉しい限りである。コロナの活動制限も緩和され更なる依頼を期待したい。

横手青年会議所との懇談会は2回目の開催。今回も今の青年活動の実情が分かり、特に、情報の発信や事業においてはWEB上での動きが強い。当たり前の世の中にはなってきたが、それをどうこなしているか、今回の取り組みを聞いて自分なりに落とし込んだ。JC側は我々の知見を落とし込んでくれただろうか！ たくさん話をして、フランクにやったつもりだが……。賑やかに笑いなどもあったが、有意義な会であり、ここから議会基本条例第7条の理念に到達できればと思う。

《大日向香輝 広報広聴副委員長》

各グループとも横手を愛し良くしようという意気込みが感じられ、大変頼もしく感じた。しかし、任期最後の事業成功を目標としている点も感じられ、任期が終われば無関心とならないよう、次に任命される会員に引継ぎができるシステムを作っていただくことを望む。SNS等で拡散するという内容に一言苦言を申ししたが「まずは自分が」という姿勢が見えればいろいろな面で成功できると思う。今後も頑張っていたきたい。

《土田百合子 議員》

横手青年会議所との意見交換において、①ウェルビーイング、②ひとづくり、③まちづくりの3委員会のグループに分かれて意見交換が行われた。横手青年会議所では、3委員会を立ち上げ年間事業計画書を作成し取り組んでいる。私はウェルビーイング委員会に入り、その取り組みについて話し合いが行われた。

テーマ「わたし」の幸せから「わたしたち」の幸せへ。基本方針・目標は「地域社会とのつながりの中で個人の主観的価値観や、お互いの個性・多様性を尊重し合い、自分らしく生きられる「幸せの人口」の増加をめざす」ことである。

これからの時代を担う人材と、真剣に取り組んでいる青年との交流は新鮮で頼もしく、新たな経営の在り方を学ぶ良い機会を得ることができた。話を伺う中で、議会のウェルビーイングとは何か。私にとってのウェルビーイングとは何かを考えさせられた。議員の使命は「市民の福祉向上」「市民の満足度」をあげることにある。自らが成長し、人のために役に立つことが自治の基本である。そこに議員の存在価値がある。今、なぜ、ウェルビーイングが注目される背景とは何か。それは、少子高齢化が加速し、中長期的に見て深刻な人材不足に陥ることが予測されている。終身雇用という概念は希薄になり、価値観に合う職場を求めて転職することが一般的になっている。企業において事業に貢献する人材の確保は大きな課題であり、利益だけでなく、従業員やその家族に対する幸福を追求する姿勢も明確にする必要がある。このような背景には、2019年4月からスタートした働き方改革にある。残業

時間の上限規制やテレワーク、副業が可能であるなど、企業はどのような働き方であれば従業員の幸福度、満足度が増してやりがいを感じるのかといった観点で制度や仕組みを検討する必要がある。また、新型コロナウイルスの感染拡大で急速に普及したテレワークは、業務の効率化につながったが同時に新たな問題点やストレスも表面化している。コミュニケーションができない中での業務にメンタルの不調を訴える人たちがいる。そのため、従業員の家族が健康でやりがいを持って仕事をするための考え方として「ウェルビーイング」幸せ人口の増加を目指す働き方改革が求められているのだ。このような取り組みが推進されることにより、新たな生き方、時代をつくることにつながると感じた。今回の意見交換で学ぶことは多かったと思う。このような交流をこれからも継続していただくことをお願いしたい。

《井上忠征 議員》

まずは青年会議所の皆さんが、自身の会社経営等の傍ら、地域発展のために活動をしていることに対して敬意を表する次第である。

取り上げているテーマは非常に大きなものであり、挑戦する姿勢は尊重し、応援して行きたいと思ったが、これを担当するメンバーの人数や、任期1年の中で具体的に計画し、結果を出していくということは厳しいように感じられた。大きなテーマであれば複数年に亘って対応することにして、年度毎に具体的なものに絞って取り上げることが良いのでは。青年層ならではの考えや意見からスタートすると思うが、計画作成・実行するための事前調査について、所属する企業のベテラン職員や他の団体からの意見を収集することで、実現に向けての企画が具体化しやすくなるのではないかと。

皆さんそれぞれ、JCメンバーとして自覚し行動されている姿勢は素晴らしいと思った。これからも横手地域の発展のため、協調していきたい。

《加藤雄太 議員》

横手市で頑張られている若手の方々とお話しができる貴重な機会となった。現在JCに於いて活動されている状況について伺ったが、民間だからこそできる部分により着目し、行政側とはまた違った色を出してほしいと感じた。

また、組織として入れ替わりが多く、お一人お一人が事業に恒久的に携わることは難しいと思うので、如何に事業に対する意識や方向性を継続していくかが重要であるとも感じた。

すべての懇談会や意見交換会に言えることではあるが、今後も事業の進捗状況や意見交換についての場を設けてもらいたいと思う。

《林一輝 議員》

自分はまちづくり委員会のグループだったが、活発な意見交換が行われ、とても有意義な時間だった。各地域で活動している議員ならではの意見・情報が次々と出されたが、横手青年会議所の皆さんが普段思いつかない視点からの話だったのではないかと感じた。また、議員も青年会議所の若い会員の考え方に触れることができ、両者にとって刺激になる意見交換

だったと思う。

横手市議会も横手青年会議所も横手市のことを考えて日々活動している点は共通しており、活発な議論がされたことから、青年会議所との意見交換会は、年1回設けても良いのではないかと思った。また、年末に開催し、次年度の例会（事業）についての意見を市議会から伝えたり、Y8のように事業化する前に議員がアドバイスに入るといった関わり方も良いのではないかと思った。

《青山豊 議員》

ウェルビーイング委員会の年間目標である「個人の主観的価値観やお互いの個性・多様性を尊重し合い、自分らしく生きられる“幸せ人口”の増加を目指します」はぎすぎすした昨今の世の中であって、人間が失ってはならない大事なことを再認識させられるものだった。

企業の人手不足という課題を経営者がウェルビーイングを導入することで解決していくという姿勢はJC会員ならではの着眼点。あとは、その成果をどのように検証していくのか？参加者アンケートだけでは足りないのではないか？という指摘をさせていただいた。

非常に有意義な意見交換だったが、せっかく参加しているのにJC側も議会側も一言も発しない方がいらっしゃったのは残念な点である。ファシリテーターがいれば良かったかもしれない。

ひとつづくり、まちづくり、そしてウェルビーイングは相互につながっている。それぞれの事業を通して、横手の魅力を探す。また、それぞれの事業を始めるにあたり、もう一度横手の魅力を見つめ直す。そんな深掘りが将来の横手市をつくりあげる契機になり得ると思う。

単年度の事業とのことだが、もったいない。ぜひ、次年度も何らかの形で継続していただければ幸いである。

《福田誠 議員》

ウェルビーイング委員会での意見交換は新鮮なものであった。市議会の一般質問でも「ウェルビーイング」が取り上げられたように、タイムリーな話題であったと思う。具体的な施策としてインスタグラムで#横手市民笑顔プロジェクトなるフォトコンテストを開催すること。久しぶりにインスタに投稿しようと思った次第である。

《立身万千子 議員》

明日の横手市を担うべき立場の青年たちの気概が感じ取れた。グループワーク方式も各々忌憚なく意見交換できたと思う。横手市の現状分析と、その課題を解決するための実践については、例会までのロードマップをもっと具体化させる必要があると思う。3グループとも組織化されにくい事業所等へのリサーチや行政との連携に、より力を入れることも大切ではないだろうか。そのためには議会も懇談等を一度で終わりではなく継続していけば良いのではないかと思った。

《高橋和樹 議員》

「ひとつづくり」委員会との意見交換にて、野外活動、新たな考えや価値観を生み出す事業の実施、SNSでの発信が主な事業計画とのことだが、所属する委員会の任期が短いので、長期にわたる計画は次の委員会メンバーに引継ぎして完結していただきたいと思う。中途半端で終わらせることがもったいない事業であればなおさらであると思う。現在の案件で、「横手やきそば」について動いているようだが、大々的なイベントよりも、市民に密着している「横手やきそば」の火を消すことなく、「横手市民なら普通に食すもの」⇒「伝統」⇒「観光の一部」の流れを広めていただきたい。

現在の会員数が26名とのこと。ひと昔の会員数と比べると、その少なさにびっくりした。会員拡大に私も応援したいと思う。

《菅原正志 議員》

「まちづくり」をテーマに話し合った。横手の魅力や誇れるものを認識し、発信していくことを共有できた。30歳以上離れた若者との懇談で大変刺激を受けた。年齢や経験にとらわれず、横手をよりよくしたいという思いを形にすることが肝要である。意志ある若者たちと知り合う機会となっただけでも有意義であった。今後に期待する。

1 1. 懇談会の様子











